

いまどきの大学生協の役割を考える

只友 景士（大学生協京都事業連合理事長、龍谷大学教授）

2018年問題をご存じですか？2018年から18歳人口が減少し始め、大学の経営に大きな影響を与えると考えられています。そのため学生を確保すべく、大学は生き残りをかけた激しい競争の時代に入っています。大学の経営陣は、学生の福利厚生改善を学生確保のためにも重要であると考えています。大学における福利厚生の担い手である大学生協も重要な役割を果たさなければならない時代に入ってきているといえます。ところが、大規模大学では、学生の選択の幅を広げ、キャンパスの魅力をアップするためとして、コンビニや外食チェーン店、大手カフェなどを学内に開業させる事例が増えてきており、大学生協も厳しい経営環境にあります。こうした厳しい競争時代だからこそ、大学生協は、その真価を発揮していかなければなりません。

大学生協は、組合員の大多数が大学生・大学院生が中心であるという特徴を持ち、学生組合員の学びと成長、キャンパスライフの充実にとって、不可欠の存在であります。大学生協は、若者のライフスタイルの変化、デジタルデバイスの普及など時代の最先端で変化への対応を迫られ続けています。一方で、大学生協の変わらぬ役割として、学内での食の提供という役割があります。午後の授業の頑張りのためにも、昼ご飯を食べないことには始まらないわけで、学生の頑張りを支える食は、大学生活の要となります。ところが、昼休みに学生が一斉に食事をとるので食堂の混雑は必至でして、大学生協食堂の混雑問題は、古くて新

しい問題です。この混雑を緩和するために出食スピード・レジスピードのアップ、席取りをせず席を譲り合う学生文化を醸成する組合員活動の取り組み、大学当局への施設改修の要求などありとあらゆる取り組みをしてきています。こうした取り組みは、組合員の快適な学生生活をつくろうとする生活協同組合運動そのものであります。当然、そうした取り組みは、組合員の声を集めて大学内の問題を自分事として解決していく、理事会・学生委員会の取り組みとなるわけです。私は常々「大学生協の理事会・学生委員会活動などは、究極のインターンシップだ」と話していますが、民主的な経済団体における理事会の経験などは、実践的で質の高い学びになると思います。そして、最近では、大学教育においても教育の質的転換が求められ、アクティブ・ラーニング、PBL（プロブレムベースドラーニング）と呼ばれる新たな学びが求められています。そうした新たな学びに、大学生協は、商品開発から店舗の改善活動など多様な局面で大学の学部やゼミ教育の学びの場を提供しています。こうした学びの場の提供は、大学教育の充実に貢献するだけでなく、大学生協の側も組織的な経営能力を高めることのできる意義ある取り組みです。

大学生協を4年間消費者として利用した経験から「協同組合の価値」を学生の皆さんに知っていただき、更に、学生の皆さんの「生き方の幅」を広げる学びの経験をしてもらえたならば、大学生協は、協同組合らしい真価を発揮できたといえるでしょう。